

興味関心から繋がっていく

作成日：2026/1/20
対象児：きく組4歳児
作成者：小城亜矢子

ねらい：興味を持った数字を使って遊ぶことを楽しむ。



振り返り

年少時から絵本の貸し出しの際に、絵本の番号を保育者に伝えて借りています。初めは保育者と一緒に数字を読んでいた子どもたちでしたが、今では、自分で絵本番号を読める子も増えてきました。読めるようになってきたので、じゃあ書いてみようということで、数字のプリントを用意しました。いざ書いてみると「難しい〜」「どうやって書くかわからん…」と難しい様子。上手く書くことや覚えることが目的ではなく、一緒に数を数えながら、数字(例えば3)と数(3つ)が結びついたらいいなと思って取り組んでいます。「5って1・2・3・4・5なんじゃ!」「2って2個よな?」と音で覚えていた数字が、物の数としてつながることを理解した子もいました。そんな中、ブロックをドミノのようにして遊んでいる子を見ると、綺麗に色分けをしながら遊ぶ姿がありました。よく見ていると、5つのかたまりを1グループにして、それを並べていたようです。見た目綺麗だからと色分けをしていたのではなく、初めにブロックを5つ集めて、イメージしながら並べることを楽しんでいたと気づき、数字を扱いながら遊ぶ姿に感心させられました。算数セットのようなおもちゃではなくても、いつも遊んでいるブロックからでも算数的な考えにつながる遊びができるんだなと思った子ども達の様子でした。でもやっぱりすぐにいつものドミノ遊びに戻っていたのも4歳児ならではの今の姿だなと微笑ましくも思いました。(数量などへの関心・感覚、協同性、思考力の芽生え)